

# OpenAM 9.5 インストールガイド



**OSSTech**

オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

作成日: 2011年6月8日

リビジョン: 1.2

## 目次

<b>1. 概要</b>	<b>1</b>
1.1 インストール条件.....	1
<b>2. 事前準備</b>	<b>2</b>
2.1 環境変数 JAVA_HOME の設定.....	2
2.2 JAVA ヒープサイズ.....	2
2.3 ホスト名の名前解決.....	2
<b>3. OpenAM のインストール</b>	<b>3</b>
3.1 OSSTech パッケージ (RPM) の場合.....	3
3.1.1 RPM 一覧.....	3
3.1.2 インストール手順.....	3
3.1.3 Tomcat の起動.....	3
3.2 war ファイルをデプロイする場合.....	3
3.2.1 OpenAM のデプロイ.....	3
3.2.2 Tomcat の起動.....	4
<b>4. 改版履歴</b>	<b>5</b>

## 1. 概要

本書は OpenAM のインストールガイドです。

### 1.1 インストール条件

本書では、OpenAM をインストールする環境として以下の環境を想定しています。

- OS: Linux (Red Hat Enterprise Linux 5 i386/x86\_64, CentOS 5 i386/x86\_64)
- JDK 6
- Tomcat 6 (OSSTech の RPM パッケージをインストールする場合、事前の Tomcat インストールは不要です。以下、Tomcat がインストールされているディレクトリを<TOMCATDIR>と記載します)
- OpenAM 9.5

## 2. 事前準備

本章では、OpenAM インストールを開始する前の確認事項について説明します。

### 2.1 環境変数 JAVA\_HOME の設定

OpenAM の動作には JDK6 が必要です。JDK6 がインストールされ、環境変数「JAVA\_HOME」が正しく設定されていることを確認して下さい。

OSSTech 版 Tomcat6 (RPM パッケージ)では、Red Hat Enterprise Linux 系のデフォルトの JDK インストールパス(/usr/java/default)を JAVA\_HOME として参照します。

### 2.2 JAVA ヒープサイズ

OpenAM を動作させる環境では、Java のヒープサイズを 1024MB 以上に設定することを推奨します。ヒープサイズは環境変数 JAVA\_OPTS により指定できます。

以下はコマンドラインで指定する例です。

```
$ export JAVA_OPTS="-Xmx1024m -XX:MaxPermSize=256m"
```

その他、OS 起動時に実行されるスクリプト内、Tomcat の起動スクリプト内などで JAVA\_OPTS を指定することもできます。

OSSTech 版 Tomcat6 (RPM パッケージ)では、設定ファイルで JAVA ヒープサイズを 1024MB に指定しているため、この設定は不要です。

### 2.3 ホスト名の名前解決

OpenAM はシングルサインオンを実現するためにクッキーをドメインに対して設定します。そのため OpenAM サーバーへのアクセスは完全修飾ドメイン名(FQDN)で行う必要があります(注 1)。FQDN が DNS 等により名前解決可能であることを確認して下さい。

Linux サーバー(Red Hat 系)の場合は、以下のファイルにも FQDN を記述してください。

- /etc/sysconfig/network

なお、本書では OpenAM サーバーのホスト名を「sso.example.co.jp」として説明します。

(注 1):IP アドレス等の完全修飾ドメイン名以外でアクセスがあった場合には、OpenAM は完全修飾ドメイン名を使って自分自身にリダイレクトを行います。

## 3. OpenAM のインストール

本章では OpenAM のインストール手順について説明します。

### 3.1 OSSTech パッケージ (RPM) の場合

OSSTech の RPM パッケージを利用してインストールする手順を説明します。Tomcat と OpenAM を RPM パッケージとしてインストールします。

#### || 3.1.1 RPM 一覧

以下の RPM をインストールします(X の部分にはビルドバージョンが入ります)。

```
osstech-base-3.0-X.el5.noarch.rpm
osstech-openam-9.5.1_RTm-X.el5.noarch.rpm
osstech-tomcat6-6.0.29-X.el5.noarch.rpm
```

#### || 3.1.2 インストール手順

rpm コマンドを使用して、RPM パッケージをインストールします。

```
# rpm -ivh osstech-base-3.0-X.el5.noarch.rpm ¥
osstech-openam-9.5.1_RTm-X.el5.noarch.rpm ¥
osstech-tomcat6-6.0.29-X.el5.noarch.rpm
```

「\ (バックスラッシュ)」はコマンドラインの途中で改行を行うために入れています。「\ (バックスラッシュ)」を入れずに、全ての RPM ファイルを一行で指定することも可能です。

#### || 3.1.3 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
# /sbin/service osstech-tomcat6 start
```

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション」という画面が表示されます。

以上でインストールは完了です。この画面から OpenAM の初期設定を行います。

### 3.2 war ファイルをデプロイする場合

OpenAM の war ファイルを Tomcat にデプロイする手順を説明します。war ファイルは Tomcat 以外のアプリケーションサーバーにデプロイすることも可能です。

#### || 3.2.1 OpenAM のデプロイ

OpenAM の war ファイルを Tomcat の webapps ディレクトリにコピーします。

```
$ cp openam.war <TOMCATDIR>/webapps/
```

## || 3.2.2 Tomcat の起動

Tomcat を起動します。

```
$ <TOMCATDIR>/bin/startup.sh
```

Tomcat が起動したら、ブラウザで以下の URL にアクセスします。

- <http://sso.example.co.jp:8080/openam/>

「設定オプション」という画面が表示されます。以上でインストールは完了です。

## 4. 改版履歴

- 2010年12月16日
  - 初版作成
- 2011年2月28日
  - リビジョン 1.1
  - OSSTech 版 Tomcat 6 RPM に関する注意事項を追記
- 2011年6月8日
  - リビジョン 1.2
  - Red Hat 系 OS の場合は、`/etc/sysconfig/network` にも FQDN を記述することを追記